

京都大学建築学教室創立90周年記念シンポジウム

建築の教育・研究のビジョン—プラットフォームの構築

21世紀を迎えて、科学技術の発展、都市化・情報化の進展、経済・社会のグローバル化の進行、先進国における少子・高齢化や途上国における人口増加、産業構造の変化、地球環境問題の深刻化など、建築をめぐる状況は大きく変化しています。そこでは、情報過多による問題や環境破壊問題など、これまで人類が経験したことのない問題が露見しており、新しい学術体系や教育のビジョンが問われています。

一方、京都大学は平成16年4月に国立大学法人となり、加えて平成16年9月に大学院の建築学専攻、平成18年9月に都市環境工学専攻（建築コース）が桂キャンパスに移転し、学部と大学院を別々のキャンパスで展開しています。また、平成21年4月から建築士法の改正に対応した教育プログラムを整備し、さらに平成22年4月には大学院を建築学専攻に一本化した組織体制のもとで新たな教育・研究を開始したところです。

こうした状況をふまえて、京都大学建築学教室90周年の記念事業の一環として、建築の教育・研究の展望について探求するシンポジウムを開催することにしました。この問題に取り組むには、大学と企業・行政・同窓生との有機的な連携が不可欠であることから、多彩な分野で活躍されている京大建築会の方々に参加して頂き、京大建築会や京大建築学教室などをはじめとする教育・研究のプラットフォームをいかに構築すべきかを描き出してみたいと思います。

記

日 時 平成22年9月19日（日）午後2時30分～午後4時

場 所 京都大学百周年時計台記念館・百周年記念ホール

パネリスト 井上俊之（国土交通省大臣官房審議官、昭和53年卒）

高橋晶子（ワークステーション共同主宰・武蔵野美術大学教授、昭和55年卒）

常岡次郎（鹿島建設関西支店、昭和61年卒）

真部保良（日経アーキテクチュア編集長、昭和59年卒）

山本和彦（森ビル副社長、京大建築会関東支部長、昭和44年卒）

コーディネータ 竹脇 出（京都大学教授、昭和55年卒）

（敬称略、パネリストは五十音順）